

[090_03] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/7162062>

出版情報：法政研究. 90 (3), 2023-12-25. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

明石欽司 教授 著作目録

単著

- Cornelius van Bynkershoek: His Role in the History of International Law*
Kluwer Law International 1998年
- 『ウェストファリア条約——その実像と神話——』 慶應義塾大学出版会 2009年
- 『不可視の『国際法』——ホップズ・ライプニッツ・ルソーの可能性——』
慶應義塾大学出版会 2019年

共著

- “30. Japan-Europe”, “50. Cornelius van Bynkershoek (1673-1743)”, *The Oxford Handbook of the History of International Law*, B. Fassbender and A. Peters (eds.)
Oxford University Press 2012年
- 『戦争と占領の法文化』 国際書院 2020年
- 『近代国際秩序形成と法——普遍化と地域化のはざままで——』
慶應義塾大学出版会 2023年

論文

- 「ウェストファリア条約の研究（一）」（『法と行政』第3巻第1号） 1992年
- 「ウェストファリア条約の研究（二）」（『法と行政』第3巻第2号） 1992年
- “Dutch Policy on Contraband in the 17th Century: Treatment of the Naval Stores and the Opinion of Bynkershoek”（『研究報告』第37巻第2号） 1992年
- 「17世紀オランダの中立通商政策——バインケルスフーク理論の検証——」
（『研究報告』第38巻第1・2号） 1993年
- 「日本の国際法実行における管轄権拡大の態様」『海上犯罪の理論と実務』（甲斐克則・片山信弘編）中央法規出版 1993年
- 「バインケルスフークのjus gentium理論」
（『研究報告』第39巻第1号） 1994年
- 「ウェストファリア条約の研究（三）」（『法と行政』第5巻第1号） 1994年

- 「ウェストファリア条約の研究（四）」（『法と行政』第5巻第2号） 1994年
- 「ウェストファリア条約の研究（五）」（『法と行政』第6巻第1号） 1995年
- 「ウェストファリア条約の研究（六・完）」（『法と行政』第6巻第2号） 1995年
- 「『連邦国家』ベルギーにおける国際法上の機能の分配と条約締結手続」
（『法と行政』第7巻第2号） 1997年
- “The Role of Bynkershoek in the History of International Law”, *Recht ende Justice*
（Handelingen van het XIIIe Belgisch-Nederlands Rechtshistorisch Congres,
Brussels), F. Vanhemelryck (red.) Catholic University of Brussels 1997年
- 「欧州近代国家系形成期の多数国間条約における『勢力均衡』概念」
（『法学研究』第71巻第7号） 1998年
- 「ルソーによるグロティウス批判——ルソーの近代国際法理論検討の契機として——」
（『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第1巻） 1998年
- 「バインケルスフークの国際法理論——『ユース・ゲンティウム』概念と方法を中心として——」
（『国際法外交雑誌』第97巻第5号） 1998年
- 「近代国際法学におけるホッブズ」
（『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第2巻） 1999年
- “Hobbes’s Relevance to the Modern Law of Nations”
Journal of the History of International Law, Vol.2 2000年
- 「日本の国際法学『対外発信』の100年——欧文著作公刊活動を題材として——」『国際社会の法と政治』（日本と国際法の100年第1巻）（大沼保昭編）三省堂 2001年
- 「ウェストファリア条約研究の現在——国際法史研究の一側面——」
（『法学研究』第75巻第2号） 2002年
- “Japanese Predecessors of Judge Oda in the World Courts: Works and Method”,
Liber Amicorum Judge Shigeru Oda, Vol.1, N. Ando, E. McWhinney and R.
Wolfrum (eds.) Kluwer Law International 2002年
- 「国際法学における『実証主義』の史的系譜」（『世界法年報』第22巻） 2003年
- “Japanese ‘Acceptance’ of the European Law of Nations: A Brief History of
International Law in Japan c. 1853-1900”, *East Asian and European Perspectives on
International Law*, M. Stolleis and M. Yanagihara (eds.) Nomos 2004年

- 「近代領海制度前史——海洋領有をめぐる実行と法理論の素描——」『海洋法の歴史的展開』（栗林忠男・杉原高嶺編） 有信堂高文社 2004年
- 「ジャン＝ジャック・ルソーによる『国際法』理論構築の試みとその挫折（一）」
（『法学研究』第77巻第8号） 2005年
- 「ジャン＝ジャック・ルソーによる『国際法』理論構築の試みとその挫折（二）」
（『法学研究』第77巻第9号） 2005年
- 「ジャン＝ジャック・ルソーによる『国際法』理論構築の試みとその挫折（三）」
（『法学研究』第77巻第10号） 2005年
- 「ジャン＝ジャック・ルソーによる『国際法』理論構築の試みとその挫折（四・完）」
（『法学研究』第77巻第11号） 2005年
- 「『ハンザ』と近代国際法の交錯——一七世紀以降の欧州『国際』関係の実相——（一）」
（『法学研究』第79巻第4号） 2006年
- 「『ハンザ』と近代国際法の交錯——一七世紀以降の欧州『国際』関係の実相——（二・完）」
（『法学研究』第79巻第5号） 2006年
- 「国際法学説における『ウェストファリア神話』の形成——一七世紀後半から一九世紀の『国際法』関連文献の検討を通じて——（一）」
（『法学研究』第80巻第6号） 2007年
- 「国際法学説における『ウェストファリア神話』の形成——一七世紀後半から一九世紀の『国際法』関連文献の検討を通じて——（二）」
（『法学研究』第80巻第7号） 2007年
- 「国際法学説における『ウェストファリア神話』の形成——一七世紀後半から一九世紀の『国際法』関連文献の検討を通じて——（三・完）」
（『法学研究』第80巻第8号） 2007年
- “The Hansa and the Law of Nations: Re-visiting the ‘Westphalian System’ after 1648”
Journal of African and International Law, Vol.1 2008年
- 「国際法史上の問題としてのスイスの『独立』——『ウェストファリア・システム』という名の幻想——（一）」
（『法学研究』第81巻第4号） 2008年
- 「国際法史上の問題としてのスイスの『独立』——『ウェストファリア・システム』という名の幻想——（二・完）」
（『法学研究』第81巻第5号） 2008年

「一八世紀中葉の『国際法』学説における『国際法』・『条約』・『国家意思』——一九世紀実証主義国際法学研究序説——」『慶應の法律学 公法Ⅱ——慶應義塾創立一五〇年記念法学部論文集——』（慶應義塾大学法学部編）

慶應義塾大学出版会 2008年

「『大東亜国際法』理論——日本における国際法理論受容の帰結——」

（『法学研究』第82巻第1号） 2009年

“Methodological Aspects of Japan’s Encounter with the Modern Law of Nations: A Brief Outline for Re-considering the Function of the ‘Persistent Spectre’”

Keio Law Review, Vol.11 2010年

「国際法の妥当範囲——『国際法の完全性』の歴史的素描——」

（『国際法外交雑誌』第109巻第1号） 2010年

「『国際法の完全性』——その理論史と概念整理——（一）」

（『法学研究』第84巻第4号） 2011年

「『国際法の完全性』——その理論史と概念整理——（二）」

（『法学研究』第84巻第5号） 2011年

「『国際法の完全性』——その理論史と概念整理——（三）」

（『法学研究』第84巻第7号） 2011年

「『国際法の完全性』——その理論史と概念整理——（四・完）」

（『法学研究』第84巻第8号） 2011年

「立作太郎の国際法理論とその現実的意義——日本における国際法受容の一断面——」

（『法学研究』第85巻第2号） 2012年

「ジャン・ボダンの国家及び主権理論と『ユース・ゲンティウム』観念（一）」

（『法学研究』第85巻第11号） 2012年

「ジャン・ボダンの国家及び主権理論と『ユース・ゲンティウム』観念（二・完）」

（『法学研究』第85巻第12号） 2012年

“Sakutarō Tachi: A Blend of Scholarship and Practitionership, and Its Fate in Japan” *Japanese Yearbook of International Law*, Vol.56 2013年

“The Complex History of International Law: (Re-) Examination of ‘the Eurocentric Story of International Law’ through the Japanese Experience”

Proceedings of the 107th Annual Meeting of the American Society of

International Law 2013年

「近代国家の形成と『国境』——フランス・スペイン間国境画定史を題材として——」

(『国際問題』第624号) 2013年

「『一八世紀』及び『一九世紀』における国際法観念——『勢力均衡』を題材として—— (一)」

(『法学研究』第87巻第6号) 2014年

「『一八世紀』及び『一九世紀』における国際法観念——『勢力均衡』を題材として—— (二)」

(『法学研究』第87巻第7号) 2014年

「『一八世紀』及び『一九世紀』における国際法観念——『勢力均衡』を題材として—— (三・完)」

(『法学研究』第87巻第8号) 2014年

「ジャン＝ボダンの主権理論の『国際法』文献における受容過程の素描——主権理論確立過程検証のための準備作業として——」

(『法学研究』第88巻第1号) 2015年

「『着弾距離』説と『海帯』観念の関係——一七世紀オランダの国家実行を主たる題材として——」

(『法学研究』第88巻第6号) 2015年

「ライプニッツの法理論と『近代国際法』——『法』・『国家』・『主権』・『ユース・ゲンティウム』の観念を題材として—— (一)」

(『法学研究』第88巻第11号) 2015年

「ライプニッツの法理論と『近代国際法』——『法』・『国家』・『主権』・『ユース・ゲンティウム』の観念を題材として—— (二)」

(『法学研究』第89巻第4号) 2016年

「ライプニッツの法理論と『近代国際法』——『法』・『国家』・『主権』・『ユース・ゲンティウム』の観念を題材として—— (三)」

(『法学研究』第89巻第6号) 2016年

「ライプニッツの法理論と『近代国際法』——『法』・『国家』・『主権』・『ユース・ゲンティウム』の観念を題材として—— (四)」

(『法学研究』第89巻第7号) 2016年

「ライプニッツの法理論と『近代国際法』——『法』・『国家』・『主権』・『ユース・ゲンティウム』の観念を題材として—— (五・完)」

- (『法学研究』第89巻第8号) 2016年
「安達峰一郎と日本の国際法学」『安達峰一郎——日本の外交官から世界の裁判官へ——』(柳原正治・篠原初枝編) 東京大学出版会 2017年
「国際法学における『法文化』に関する一考察——日清・日露戦争期日本人法学者による『対外発信』を題材として——」『戦争と占領の法文化』(出口雄一編) 国際書院 2020年
「条約における『主権』——独仏間とドイツ諸邦間の領域割譲・境界画定条約(1772—1871年)を題材として——」(『国際法外交雑誌』第121巻第4号) 2023年
「一九世紀国際法規範の普遍化の実相——米国と『外国人遺産取得権』の関係を題材として——」『近代国際秩序形成と法——普遍化と地域化のはざままで——』(明石欽司・韓相熙編) 慶應義塾大学出版会 2023年
“The Law of the Sea in Ancien Regime Europe (1661-1776)”, *The Cambridge History of International Law*, Vol.VI, Part II: International Law in Ancien Regime Europe (1661-1776), R. Lesaffer (ed.) Cambridge University Press 近刊

その他(書評・判例批評・辞典等)

共訳書

- 『正しい戦争と不正な戦争』(マイケル・ウォルツァー著、萩原能久監訳、第9・10章) 風行社 2008年

判例批評

- 「国際法上の義務の優越——国内法の援用の禁止——アラバマ号事件」『国際法判例百選(第3版)』(別冊ジュリスト255号) 2021年

書評

- “H. Bull *et al.* (eds.), *Hugo Grotius and International Relations* (Clarendon Press, Oxford, 1990), viii + 331 pp.”

Netherlands International Law Review, Vol.38 1991年

“A. C. G. M. Eyffinger (red.), *Compendium volkenrechtsgeschiedenis*, 2.druk (Kluwer, Deventer, 1991), x + 224 pp.”

Jus Commune (Max-Planck-Institut), Vol.19 1992年

「TOYODA, Tetsuya, *Theory and Politics of the Law of Nations: Political Bias in International Law Discourse of Seven German Court Councilors in the Seventeenth and Eighteenth Centuries* (Martinus Nijhoff, Leiden/Boston, 2011), xiv + 220 pp.]

(『国際法外交雑誌』第112巻第3号) 2013年

“TOYODA, Tetsuya, *Theory and Politics of the Law of Nations: Political Bias in International Law Discourse of Seven German Court Councilors in the Seventeenth and Eighteenth Centuries* (Martinus Nijhoff, Leiden/Boston, 2011), xiv + 220 pp.”

Japanese Yearbook of International Law, Vol.57 2014年

事項解説

「閉鎖海論」・「ロチュース号事件」 『国際関係法辞典』(国際法学会編)

三省堂 1995年

「ウェストファリア条約」・「海洋自由論 (Mare Liberum)」・「海洋閉鎖論 (Mare Clausum)」・「近代国際法」・「古代国際法」・「コンソラート・デル・マーレ (consolato del mare)」・「ジェイ条約 (Jay Treaty)」・「自己拘束説 (Selbstverpflichtungstheorie)」・「正戦論 (bellum justum)」・「バインケルスフーク (Cornelius van Bynkershoek: 1673-1743)」・「万国公法」・「無差別戦争観」・「ユース・ゲンティウム (jus gentium)」 『コンサイス法律学用語辞典』(佐藤幸治ほか編)

三省堂 2003年

「一四九三年五月四日の教皇 (アレクサンデル六世) 教書 (抜粋)」(翻訳)・「ウェストファリア条約 (抜粋)」(翻訳) 『国際条約集』

有斐閣 2003年版以降

「オランダ憲法 (抜粋)」(翻訳) 『国際条約集』

有斐閣 2006年版以降

「セルデン」・「バインケルスフーク」・「ロチュース号事件」・「着弾距離説」・「閉鎖海論」 『国際関係法辞典 (第2版)』(国際法学会編)

三省堂 2005年

“Freiheit der Meere” (Bd.3); “Grenze” (mit R. Stauber, Bd.4), *Enzyklopädie der Neuzeit*, F. Jaeger (Hrsg.)

J. B. Metzler 2006年

“Bijnkershok, Dissertation on the Dominion of the Sea”, *The Formation and Transmission of Western Legal Culture: 150 Books that Made the Law in the Age of Printing*, S. Dauchy and G. Martyn (eds.) Springer 2016年
「コラム ウェストファリア神話」『主権国家と革命 一五～一八世紀 (岩波講座世界歴史 第15巻)』(木畑洋一・安村直己編) 岩波書店 2023年

報告書

「19世紀後半における日本の国際法受容と日朝関係」『開港期韓国における不平等条約の実態と朝鮮・大韓帝国の対応』

(KOREA FOUNDATION 2001年度共同研究プロジェクト

(研究代表者=柳原正治) 研究成果報告書) 2002年

「立作太郎の国際法理論とその実践性——日本の国際法受容とその一つの帰結——」

『東アジアにおける近代ヨーロッパ国際法の受容と伝統的華夷秩序の相克に関する研究』(平成16年度～平成18年度科学研究費補助金基盤研究 (B))

(研究代表者=柳原正治) 研究成果報告書) 2007年

主要学会報告

“The Role of Bynkershoek in the History of International Law”

Het XIIIe Belgisch-Nederlands Rechtshistorisch Congres 1994年

「バインケルスフークの国際法理論——『ユース・ゲンティウム』概念と方法を中心として——」 国際法学会 1998年

“Two Millennia of International Law: The Japanese Encounter with International Law”

The 95th Annual Meeting of the American Society of International Law 2001年

「国際法学における実証主義の史的系譜——18世紀における『実証主義』の内実を中心として——」 世界法学会 2002年

「国際法の妥当範囲——その史的検証——」 国際法学会 2009年

“The Complex History of International Law: (Re-)Examination of the ‘Eurocentric Story of International Law’ through the Japanese Experience”

The 107 th Annual Meeting of the American Society of International Law		2013年
「日本における国際法理解と法文化——戦争法を題材として——」		
	法文化学会	2018年
「日本の国際法学——法の『継受』と『受容』の視点から——」		
	国際法協会日本支部	2019年
「条約における『主権』——独仏間の領域割譲・国境画定条約（1772—1871年）を素材として——」		
	国際法学会	2021年

その他

「もう一人のオランダ人国際法学者」	（『日蘭学会通信』第84号）	1998年
「教員紹介」	（『三色旗』635号）	2001年
「夜間スクーリングをふりかえって」	（『三色旗』648号）	2002年
「大学の一機能」	（『OPEN』（慶應義塾）第6号）	2002年
「ドイツ国際法学会研究大会参加報告」		
	（『国際法外交雑誌』第104巻第2号）	2005年
「中村洸先生」・「私の研究紹介」		
	（『語り継ぐ三田法学の伝統（慶應義塾大学法学部法律学科史）』）	2006年
「常識」	（『三色旗』701号）	2006年
「三人閑談 富士山と日本人」（宮家準・明石欽司・中島直人）		
	（『三田評論』1171号）	2013年
「宇宙法センターの設立と活動概要」	（『慶應義塾研究活動年報2013』）	2014年
「宇宙法研究拠点の構築を目指して」	（『塾』（慶應義塾）283号）	2014年